

## 東京湾要塞跡 猿島砲台跡・千代ヶ崎砲台跡の国史跡指定について

国の文化審議会（会長：宮田 亮平）は、平成 26 年 11 月 21 日（金）に開催した同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、下記のとおり市内猿島 1 番地に所在する東京湾要塞跡猿島砲台跡と同西浦賀 6 丁目に所在する東京湾要塞跡千代ヶ崎砲台跡を新たに国の史跡に指定するよう文部科学大臣に答申しました。

平成 27 年 3 月 10 日に文部科学公報への告示があり、正式に国史跡に指定されました。

この指定により、市内の国指定の文化財は 13 件（史跡は 3 件）になります。

【史跡】・三浦安針墓（大正 12 年に指定）・夏島貝塚（昭和 47 年に指定）

なお、近代以降の軍事に関わる遺跡で、「国防のために建設された施設」の史跡指定は全国で初めてです（近代以降の軍事に関わる遺跡の史跡指定先行例としては、内戦である西南戦争に関わる「西南戦争遺跡（熊本県）」があります）。

## ○指定理由

明治時代、首都防衛のため陸軍によって東京湾岸一帯に築かれた要塞の遺跡。猿島砲台は明治 17 年（1884 年）に、千代ヶ崎砲台は同 28 年（1895 年）にそれぞれ竣工した沿岸砲台で、我が国近代の軍事、土木・建築技術の歴史を知る上で重要である。

（文化庁報道発表要旨より）

## 記

1	史跡の名称	東京湾要塞跡 猿島砲台跡・千代ヶ崎砲台跡	
2	指定の種別	史跡	
3	所在地	猿島砲台跡	横須賀市猿島 1 番
		千代ヶ崎砲台跡	横須賀市西浦賀 6 丁目 17 番 1 ほか
4	土地所有者	猿島砲台跡	横須賀市
		千代ヶ崎砲台跡	防衛省（一部横須賀市）
5	指定面積	猿島砲台跡	51, 159. 17 m <sup>2</sup>
		千代ヶ崎砲台跡	15, 435. 87 m <sup>2</sup>
6	史跡の概要	別紙のとおり	

## 東京湾要塞跡の概要

## 1 要塞の定義

- 明治 28(1895)年 3月 30日 勅令第 39号「要塞司令部条例」  
「第一条 永久ノ防禦工事ヲ以テ守備スル地ヲ要塞ト称シ、各要塞ニハ其地名ヲ冠シ某要塞ト称ス」

## 2 日本の要塞(27 要塞)

- ① 明治 10年代着工の要塞 東京湾要塞(1 要塞)  
② 明治 20年代着工の要塞 対馬要塞・下関要塞・由良要塞(3 要塞)  
③ 明治 30年代着工の要塞 広島湾要塞・舞鶴要塞・函館要塞など(11 要塞)  
④ 大正時代以降着工の要塞 父島要塞・奄美大島要塞・宗谷要塞など(12 要塞)

## 3 東京湾要塞(32 砲台)

- ① 明治 10年代着工の砲台 観音崎砲台・第一海堡・猿島砲台など(5 砲台)  
② 明治 20年代前半着工の砲台 夏島砲台・波島砲台・第二海堡など(7 砲台)  
③ 明治 20年代中頃着工の砲台 第三海堡・千代ヶ崎砲台など(5 砲台)  
④ 明治 20年代後半着工の砲台 大浦堡壘・三軒家砲台など(3 砲台)  
⑤ 大正時代以降着工の砲台 西浦砲台・千代ヶ崎砲塔砲台など(12 砲台)

## 4 猿島砲台

- ① 建設年 明治 14(1881)年 11月 5日起工 明治 17(1884)年 6月 30日竣工  
② 構造 第一砲台 = 27 cm加農砲 2 砲座 2 門(1 砲座 1 砲床)  
第二砲台 = 24 cm加農砲 4 砲座 4 門(1 砲座 1 砲床)  
③ 建築材・組積法等  
地下施設 = 煉瓦造・フランス積、煉瓦製造元：東洋組  
擁壁 = 石造(ブラフ積)  
石材：凝灰質砂岩(房州石)、一部安山岩  
護岸・埠頭 = 石造(布積)、石材：安山岩(新小松石)

## 5 千代ヶ崎砲台

- ① 建設年 明治 25(1892)年 12月 6日起工 明治 28(1895)年 2月 5日竣工  
② 構造 榴弾砲砲台 = 28 cm榴弾砲 3 砲座 6 門(1 砲座 2 砲床)  
近接防禦砲台 = 12 cm加農砲、15 cm臼砲、機関砲など  
③ 建築材・組積法  
地下施設 = 煉瓦造・オランダ積(隧道部に一部斜架拱を採用)、  
煉瓦製造元：小菅集治監 / コンクリート造  
擁壁 = 石造(ブラフ積)  
石材：凝灰質砂岩(房州石)、一部安山岩



猿島砲台跡：罫道と隧道



猿島砲台跡：弾薬庫と階段



千代ヶ崎砲台跡：墨道・隧道と砲座への通路入口など

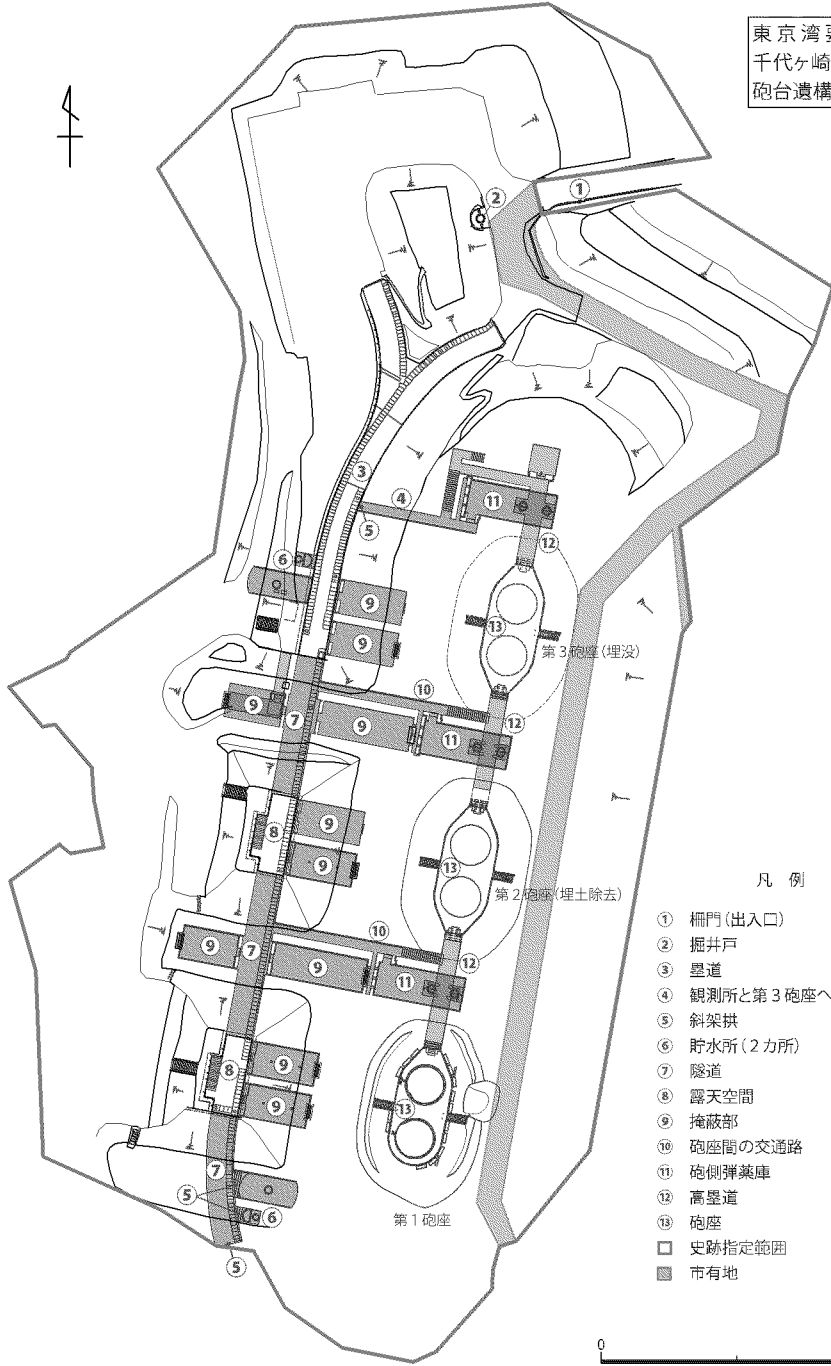


千代ヶ崎砲台跡：第二砲座

千代が崎砲台跡 位置図



東京湾要塞跡  
千代ヶ崎砲台跡  
砲台遺構全体図



凡例

- ① 柵門(出入口)
- ② 掘井戸
- ③ 塁道
- ④ 観測所と第3砲座への交通路
- ⑤ 斜架拱
- ⑥ 貯水所(2カ所)
- ⑦ 隧道
- ⑧ 露天空間
- ⑨ 掩蔽部
- ⑩ 砲座間の交通路
- ⑪ 砲側弾薬庫
- ⑫ 高塁道
- ⑬ 砲座
- 史跡指定範囲
- 市有地

## 砲台各施設の概要

- ① 柵 門（出入口） 砲台敷地の北側は土塁に囲まれており、その一部を開き、ブラフ積みと呼ばれる石積みで出入口を築きました。
- ② 掘井戸 入口を抜けると塁道を隠す土塁があり、その前面に弧状のブラフ積みで囲まれた堀井戸があります。
- ③ 塁 道 砲座や掩蔽（えんぺい）部などを結ぶ中枢的な通路で、土塁の両側から地下へと誘導し合流して1本の塁道となります。露天部分の側壁はブラフ積みの石積みです。路面脇には排水路が敷設されています。
- ④ 観測所と砲座への交通路 塁道は砲台敷地を南北に貫き、3カ所の砲座の主軸はこの塁道と平行します。塁道から砲座にいたる交通路は3本あり（④と⑩）、隧道と直角をなして掘られています。一番北側の観測所と第3砲座に至る交通路は塁道が弧を描いている部分にあるため、独特の煉瓦積みが見られます。
- ⑤ 斜架拱（しゃかきょう） 交通路の主軸と入口前面の角度が直角でないために生じた特異な煉瓦積みです。“斜架渠（しゃきょうきよ）”・“ねじりまんぼ”とも呼びます。
- ⑥ 貯水所 塁道の南北に1カ所、計2カ所の貯水所があります。南側の貯水所の入口の煉瓦積みは斜架拱です。
- ⑦ 隧 道 地下部分の塁道は3カ所の隧道と2カ所の露天空間からなります。隧道は煉瓦造・コンクリート造ですが、隧道の開口部で雨水が当たる部分には浸水防止のため焼過煉瓦を使用しています。
- ⑧ 露天空間 隧道部の途中、採光や換気、地上との連絡のため方形に開さくされた露天空間が2カ所あります。ブラフ積みの石積みで、掩蔽部前面には焼過煉瓦を使用しています。
- ⑨ 掩蔽部 平面長方形の部屋で天井がかまぼこ型のヴォールト構造です。塁道に面した前面の中央に入口、その両脇に窓、両端下部に吸気口、奥壁に排気筒があります。規模は幅5m、奥行き8.3～13.8mを測ります。将校室・兵室・炊事場・砲具庫・病室などに使用されていたと考えられます。
- ⑩ 砲座間の交通路 第1・第2砲座と第2・第3砲座の間は共通の仕様で交通路・掩蔽部・砲側弾薬庫があります。交通路の先はランプ構造で、高塁道へ階段で接続しています。
- ⑪ 砲側弾薬庫 庫内には高塁道へ砲弾を送る揚弾機があり、床と天井の円形の穴がその痕跡です。掩蔽部との間には共有する点灯室があり、壁に3カ所の点灯窓があります。
- ⑫ 高塁道 砲座への（砲座間の）連絡路です。砲側庫から揚げられた砲弾を砲座に運ぶ装置の痕跡が側壁に残っています。
- ⑬ 砲 座 砲座は3基あり、それぞれ榴弾砲2門を備えていました。なお、第1砲座は開口していましたが、第2砲座は今回の用途廃止に伴い埋没土が除去されました。第3砲座は戦後に埋められたままです。